



創立150周年 夏休み号（令和5年7月20日発行）

*kurosyou-dayori*

# 鉄小だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kurogane/> 横浜市立鉄小学校

共に励まん 育たなん 150周年の夏

校長 玉置 恭美

- 1 東風(こち)は都(みやこ)の息吹を運び 文化の港を南にひかえ 地の利の恵み 豊けき処 ここ武蔵野のかたほとり
- 2 蛍の光 窓の雪とぞ 風の朝(あした)も雨ゆる夕も いそむ数百は 我等(われら)学び子 かたき心 くろがねの
- 3 いまし我等(われら)は 幼き芽生え 花と咲くべし 実を結ぶべし 我等のいさおは 母校のほまれ 共に励まん 育たなん  
廣田花崖(ひろたかがい)作詞、幾尾純(いくおじゅん)作曲 鉄小学校校歌

文語調の歌詞に、歴史が感じられます。自然の豊かさや、学びに向かう子どもたちの思い、大地と共に育ち、共に実を結んでゆく、くろがねの様子が鮮やかに表されています。

6月1日の朝日新聞朝刊、横浜版に「不屈の作家 広田花崖」という文字を見つけました。廣田花崖さんは鉄小学校の校歌の作詞者で、(学校に残っている資料には「廣田」と記されています。)この記事は広田花崖の随筆集『田園』の復刻版を出版した、広田商事の広田実会長についてのものでした。

以下、鉄小学校、校歌の作詞者、廣田花崖さんについて、朝日新聞からの引用です。

—花崖は大正から昭和にかけて、市ヶ尾を拠点に都筑郡で活躍し、神奈川新聞の前進の通信社で都筑郡の情報を執筆、のちに東京朝日新聞の通信記者も兼ねた。陸軍技手だった 22 歳の時、乗り込んだトロッコが脱線して投げ出され、両足を切断。自動二輪車のサイドカーに乗り込み田園に分け入った。農村の若者が次々に都会へ向かい、農村荒廃が叫ばれていた 1925 年に『田園』を出版、生活の楽しさや喜びを丁寧に描き、「農村を見直そう」と呼び掛けた。両足切断を乗り越え、執筆・記者活動を行い、農村に文化を伝えたいと始めたものの一つが新聞販売所だった。—

大正 14 年、鉄小学校創立 50 周年を記念し、校旗と校歌が制定されました。当時の校長先生が詩人の廣田花崖さんをお願いして校歌ができたそうです。事故にあっても熱意を捨てず、執筆活動に取り組んだ、廣田花崖の思いが鉄小そしてまちの歴史を支えているかのようです。校歌の 3 番の歌詞「花と咲くべし 実を結ぶべし 共に励まん 育たなん」は現在の学校教育目標の一部と重なっています。150周年の夏。鉄小の歴史にも触れ、健康で充実した日々となりますように。

